

日本国際保険学校 (Insurance School (Non-Life) of Japan: ISJ)

■東アジア各地域の損保業界と相互理解、交流強化を目的とした保険技術協力プログラム

2025年3月現在

	一般コース	上級コース	海外セミナー
1. 設立(開講)年	1972年(昭和47年)	1991年(平成3年)	1993年(平成5年)
2. 設立経緯	国連貿易開発会議(UNCTAD)の勧告および東アジア保険会議(EAIC)の要請を受けて関係委員会で検討。本邦損保業界が東アジア地域の損保業界に対して行う純粋な海外技術援助研修プログラムとして発足した。	1987年(昭和62年)の保険審議会答申指針事項(ISJの充実)を契機に 関係委員会で検討、既存の「一般コース」とは別に中堅、管理職層の者を対象としたワークショップ形式のより高度な研修プログラムとして発足した。	1992年10月の協会理事会で了承された業界課題「国際交流の推進」を具体化するものとして、ISJ 参加地域に講師を派遣し、現地で関心のあるテーマについてセミナーを行うプログラムとして設けられた。
3. 目的	東アジア地域の損保事業関係者に対し、損保に関する教育・研修を行い、同地域の損保市場の健全な発展に寄与するとともに友好・親善を図る。		
4. 主催者	一般社団法人日本損害保険協会および公益財団法人損害保険事業総合研究所 [共催]		
5. 対象地域	合計16地域 (ISJでは、国名ではなく都市名で表記しています) バンコク、香港、ジャカルタ、マニラ (1972年から) マカオ (1988年から)、プノンペン (1999年から)、クアラルンプール、シンガポール (1973年から)、北京、台北 (1989年から)、ウランバートル (2007年から一般コースのみ)、ソウル (1978年から)、ハノイ (1994年から)、ウランバートル (2015年から上級コース追加)、バンドルスリブガワン (1986年から)、ネピドー (1996年から)、ビエンチャン (2016年から一般コースのみ)		
6. 参加者枠 (受入限度)	30名 <3名>北京、マニラ、プノンペン、台北 <2名>バンコク、ハノイ、ジャカルタ、クアラルンプール、ネピドー、ウランバートル <1名>バンドルスリブガワン、香港、マカオ、ソウル、シンガポール、ビエンチャン	32名 <3名>バンコク、ジャカルタ、クアラルンプール <2名>北京、ハノイ、ネピドー、香港、マニラ、プノンペン、ソウル、シンガポール、台北、ウランバートル <1名>バンドルスリブガワン、マカオ、ビエンチャン	1都市あたり100名程度を目安
7. 卒業生数	1,652名 (第1回~第50回) うち保険監督官庁からの参加者数は277名	696名 (第1回~第34回) うち保険監督官庁からの参加者数は136名	約6,240名 (第1回~第31回)
	*一般・上級コースとも、卒業生からは、各地域の保険当局、業界の主導的立場に立つ人物を輩出		
8. 場所 / 期間	東京 / 毎年、秋 (通例11月~12月) に約2週間	東京 / 毎年、春 (通例5月~6月) に約2週間	ISJ参加地域 / 毎年、1~2地域で開催
直近の開催実績	2024年11月18日~11月22日 (オンライン) 2024年11月28日~12月4日 (来日) テーマ: 「損保業界に求められる業務品質と専門的知識・スキルの向上」	2024年5月29日~6月4日 (オンライン) 2024年6月12日~6月18日 (来日) テーマ: 「損害保険市場における持続可能な成長戦略の策定」	2025年2月18日 (対面) 開催地域: マニラ (フィリピン) テーマ: 「不確実性の時代における損害保険会社の挑戦」
9. 講師	損保総研専任講師、損害保険会社(含、協会)から選出された職員、および業界外特別講師(大学教授等)が講師を務める。		
10. 言語	英語 (海外セミナーでは、開催都市により、英語または日本語での講義を、各現地語に通訳することがある。)		

<参考：これまでの海外セミナー開催地>

第1回：1993年香港(80名)、バンコク(90名)	第2回：1994年クアラルンプール(96名)、シンガポール(65名)	第3回：1995年ジャカルタ(120名)、マニラ(70名)	第4回：1996年台北(114名)、ソウル(91名)
第5回：1997年北京(120名)、上海(75名)	第6回：1998年ハノイ(60名)、ヤンゴン(90名)	第7回：1999年シンガポール(127名)	第8回：2001年バンコク(130名)、クアラルンプール(90名)
第9回：2002年北京(126名)、上海(86名)	第10回：2003年ソウル(97名)、台北(121名)	第11回：2004年ジャカルタ(221名)、マニラ(107名)	第12回：2005年ハノイ(118名)、ホーチミン(90名)
第13回：2006年プノンペン(140名)	第14回：2007年バンコク(110名)、クアラルンプール(91名)	第15回：2008年ソウル(115名)、台北(120名)	第16回：2009年ハノイ(121名)、ホーチミン(118名)
第17回：2010年マニラ(125名)、ウランバートル(76名)	第18回：2011年ジャカルタ(220名)	第19回：2012年ヤンゴン(95名)、プノンペン(175名)	第20回：2013年ハノイ(205名)、ホーチミン(110名)
第21回：2014年バンコク(246名)	第22回：2015年マニラ(253名)	第23回：2016年ヤンゴン(219名)	第24回：2017年ジャカルタ(166名)
第25回：2018年ヤンゴン(130名)	第26回：2019年バンコク(280名)	第27回：2020年ハノイ(165名) (オンライン)	第28回：2021年ジャカルタ(300名) (オンライン)
第29回：2023年ヒンチヤン(45名) (オンライン)	第30回：2024年プノンペン(120名)	第31回：2025年マニラ(107名)	